LUZ の熊野古道案内

2009 年　3 月　下

3 月 24 日　～　31 日

je2luz.exblog.jp

目次

２００９年　３月

３月２４日　松本峠ー木本神社ー花の窟神社
３月２５日　駅前再開発？？？図書館
３月２６日　山道　評議道
３月２７日　熊野の商売人
３月２８日　降らずに済みそう・・・さわやかウォーキング
３月２９日　花冷えは続いていますが・・・
３月３０日　**JR** さわやかウォーキングのお客さん　**1**
３月３１日　**JR** さわやかウォーキングのお客さん　**2**

2009 年　03 月　25 日

熊野の旅　駅前再開発？？？図書館

熊野市の玄関と言えば『熊野市駅』と言うことになります。

最早、貨物の取り扱いも郵便の取り扱いも無くなっているので、物流に関しては鉄路は全く働かなくなっています。

人のほうも随分前から道路に取られて一日４本ほどの特急列車の乗降客も寂しい限りです。

かつて、ここが『紀伊木本駅』と言われた頃から。紀勢本線が５０年前に全通して『熊野市駅』と名前を変えた頃までは本当にここが玄関口でした。

駅の向かって左側には国鉄の貨物取り扱い用のヤードがあり、『国鉄』と日本通運『丸通』の倉庫があったものです。

木本から積む物はあまり無かったのですが、材木とたまに『薪』を積み込んでいました。

着くほうの荷物は、木本がこの地方の中核都市でしたから結構下ろしていましたね。

でも、量の割りに丸通と国鉄の職員数が多かったです。

かなり無駄でも、それで駅が賑わっていた面もあったのでしょう。

国鉄が分割されてからはその貨物ヤードなどは「整理財団」とやらの持ち物になり売りに出されていましたが、結構広いし、駅の横と言う立地で評価もそこそこ高いし、駅の横と言う最早観光客の目には留まらない場所なので観光などの目的で買う企業もなし…

結局、熊野市が引き受けることになり、確保してありました。

十数年前になるでしょう…

ここに、観光・文化会館と図書館を兼ねた会館を建てる計画がでてきました。

確かに、市民会館も手狭ですし、中会議室とか小会議室も惨めです。その市民会館に併設されている図書館も『図書室』程度です。

しかし、すでにその頃にも図書館を利用する人は激減していました。

本も少ないから…と言う意見もありましたが、そもそもこの広大な面積に人口が２万ほどしか居ないのです。

その 30%が６５歳以上のお年寄りです。

利用見込み客が少なすぎます。

各学校の図書室を少し充実させてやる方がずっとましな話です。

会議室なども市民会館の会議室が使われないで閉まりっぱなし…各学校の教室も利用されないまま…有効活用したほうが…

そんなことから、億の金をかけて会館を建てるのは無駄だろうと言うことで、凍結したのですが、市長が変わり議会も変わったので、『立派に』復活して工事中です。

どでかい姿が少しずつ現れています。

駅前もどこも住む人が減って、建物を取り壊して駐車場だらけになっているのに、すごい金をかけた駐車場もあるとか…

当然のこととして、今まであった『観光会館』も取り壊しました。

この立派な観光案内版も当然撤去です。

もっと立派なものが出来るのでしょうからね。

タクシーの運転手詰め所も撤去され追い出されました。
詰め所がなくなった場所も、タクシーの運転手さんたちは今もきれいに掃除を続けています。

この人たちが生まれた頃に始まったタクシーと駅の共存も崩れそうです。
これから、どうなってゆくのやら…
会館を作れと騒いでいた『文化人』の多くは、もう、文化活動をしていないようです。
私は『野蛮人』ですからこうしたものには縁が無いですけどね。
でも、期待してください。
なけなしの金を使い、借金までして皆さんをお迎えするスペースを作りますからね。

カメラは　　オリンパスワイド
Tags:熊野市 JR 紀勢本線 モノクロ　　by **je2luz** | 2009-03-25 10:59

2009 年　03 月　26 日

熊野の旅　山道　評議道

先日書いた『デデンの道』…旧国道・評議道（ひょうげ）は木本と飛鳥町小坂を結ぶ峠越え、距離的には今の国道４２号線佐田坂経由より短いものです。
歩くとしたら、今でもこちらの方が良いのですが、サイクリングとか歩いて旅をする人はほとんど全部、今の国道を使いますね。

道路地図とかでは最早まともな道にはなっていませんからね。
一度崩れたりすると、必要度の低い道ですから中々復旧されなかったりします。
でも、今はきれいに舗装されているので普通の道になっています。と、言うか・・・
普通の道になってしまっています。
良いハイキングコースなのですが、舗装されてしまうと味気ない道になりますね。

九十九折れ（ツヅラオレ）の道で急勾配の斜面を一気に４００m登りきろうと言う道です。
道沿いに歩く分には、さほどの坂ではないのですが、昔の車にはきついものでした。
今のものに比べバスやトラックも短くて小さなものでしたが、曲がるのに切りかえしが必要なものさえありました。おまけに馬力はないし…
写真のヘアピンなどはゆるい方ですね。
この『評議道』（ひょうげ）は古くからの道で、この車の通る九十九折れの道を全てショートカットして石段のような山道で登る道が通っています。
「通っていた…」と、言ったほうが良いでしょうね。
この歩く道は全く使われない状態になってからは入り口さえ分かりにくくなってしまいました。
この道を使わなくなって 50 年ほどでしょうかね。
半世紀も経てば、人も入れ替わり、こうしたものは記憶からも消え去ってしまいます。
面白い言い伝えとかあると少しは残るのですが、この評議道には御伽噺になる面白い話も怖い話も無いようです。
地蔵さんがあちこちにあったのですから、行き倒れなどもあったのでしょうけど、昔話のようにして残るようなものも無かったのでしょうね。

こうした旧道とか峠をひたすら求めて走るライダーの方も居ますね。
旧矢ノ川峠でもそうした雑誌関係の人にあったことがあります。
そうした人には評議峠などはすこし開けすぎた平道に感じられるでしょう。

でも、中々良い道ですよ。
今は通行止めの看板が無いですから多分越えられると思います。
ものすごい崖なんてない山ですから徒歩の場合はいつでも越えられる峠です。
でも、道中を楽しむ以外には行き着いた先に名所があるでもなし・・・
やっぱり、地元の人向きのハイキングコースでしょうね。
４月の中頃からは『ゴンパチ』の良いのが採れますよ。

Tags:国道４２号線 モノクロ by **je2luz** | 2009-03-26 11:15

2009 年　03 月　27 日

熊野の旅　熊野の商売人

下の写真は、先日載せた『漫画大会』とやらの光景です。
優勝の楯らしきものはどうやら那智黒の練り物のようです。
その後ろにはパネルバンのトラックが看板代わりに据えられて、スポンサー名の書いた膜が張られていました。
これらのスポンサーのお店やお医者さんや工務店など、一応全部知っています。
共通するのは大将がそこそこ若い（熊野では）所のようです。
大店といわれる店が減ってしまっていますから、どんな行事でも全部付き合うなんてお店もなくなっていますね。

昔はお祭りと花火大会くらいがイベントでしたが、今は月に一回以上のイベントが催されますから、スポンサーになるのも大変でしょうね。
これは、どこの町でも同じ傾向なのでしょうね。
小さな町では、お店の存在自体はすでにほとんどの人が知っていますしね。
広告を見て、『行ってみようか…』となることは少ないでしょう。
でも、放っておくと忘れられるし…

スーパー・ホームセンター・コンビに・家電量販店・大型薬品店が人口２万人の町に全部揃っています。
物によっては複数の出店があるのです。
ある意味ではものすごく便利な田舎町でもあるのです。
それに、通販と配送のシステムが出来上がって、注文すれば早い時はあくる日の午前中に物が届くと言う状態です。
品揃えでは田舎のお店は太刀打ちできません。
田舎だけではなく、都会でも小型専門店が苦戦していますね。

都会の近郊で起きた現象ですが、こうした大手のチェーンによって街中の店が消えて行き、お年寄りが不便になったことの次に、今度は過当競争とかで大型店がいっせいに閉店して、お店が全然なくなるということです。
以前は田舎の風物だった『移動販売車』が都会で生活を支えているところも出ているようです。

田舎ではこれから１０年ほどで急激に進む人口減少で、商業圏のパイが急速に小さくなります。
ある程度以下の見込み客になると、外部資本のチェーンは引き上げてゆきます。
目の前でそれが起き掛けているのですが、防ぎようが無いですね。
かつては地方の物流を支えていた地方問屋もほとんど無いですしね。
都会ほどの見込み客が確保できない田舎で、新規に移動販売車を運行させてくれる人が出るでしょうかね？山の中だけではなく、平地でも『限界集落』ならぬ『限界市街地』が出来てくるのかもしれません。
身の回りのお店や普通の食堂などの大将の顔を思い浮かべてみてください。そこの跡継ぎと…
怖い話ですね、
Tags:熊野市 昭和 モノクロ

by **je2luz** | 2009-03-27 11:15

2009 年　03 月　28 日

熊野の旅　降らずに済みそう・・・さわやかウォーキング

今日はＪＲ主催の『さわやかウォーキング』とやらの日です。

今頃は波田須で歩き出した頃です。

主催者の予定では、５００人と言う大人数になるようです。

これだけの人数が細い熊野古道に入ると随分長い行列になりますね。

お昼ごろに木本に入るのでしょうかね。

少しばかり写真を撮ってこようと思っています。

何しろ、観光客の入った写真はめったに撮れませんからね。

でも、これだけの大人数が動くとなると松本峠の木本側の駐車場まで車は上がれないでしょうね。

一番下の町の入り口にでも行きましょうかね。

おそらく、おじちゃん、おばちゃん、おじいちゃん、おばあちゃんが大半でしょう。その間にちょいと若いのが挟まると言う構図でしょうね。

本町通りも横断幕など用意して歓迎準備はしていましたからね。

先日書いた、『古道ぜんざい』も仕込み終わって、準備万端整ったことと思います。

なんだか。各町内の役員に召集が掛かっているようなのですが、そちらはサボらせていただいて、ＰＲ活動？の方に専念します。

曇り空なので影の少ない写真は撮れるのですが、すっきりクッキリと言う感じにはなりませんね。

薄日が差してきていますが晴れるまでは行かなさそうです。

カメラは　　ウェルタ・ペルレ　テッサー**75**ｍｍ**2.8** 付

Tags:熊野市 熊野古道 モノクロ　笛吹き橋　　by **je2luz** | 2009-03-28 10:52

2009 年　03 月　29 日

熊野の旅　花冷えは続いていますが・・・

　例年より早く開花の始まったサクラですが、このところ『花冷え』が続いて満開になるまでにうんと時間が掛かっているようです。
　この『花冷え』を少しだけ喜んでいる人もいるでしょうね。

　今日はまだ３月最後の日曜日です。
　先ごろ載せましたように、、『熊野市神川町・桜まつり』は次の４月５日の日曜日、『下北山村池原・桜まつり』も次の土日の 4.5 になっています。
　あのまま暖かい日が続いていたら葉桜見物になっていたでしょうからね。
　でも、あと一週間…桜はどうなるのでしょうね。

　個人や会社などの花見だと、臨機応変に日にちはずらせますが、大きなイベントになってしまったものは準備が大変なのでうんと早く日にちが決まりますから大変です。
　つつじや菖蒲やチューリップなどだと花の期間も結構長いですが、桜はせいぜい一週間ですからね。
　各地で毎年、気温の変化や空模様で一喜一憂しなければならない人たちが居るわけです。

　大阪・『造幣局の通り抜け』なんて、歩くだけの花見もありますが、日本人の花見は概ねグループでゴザを広げ…まあ、今はレジャーシートを広げ…持参の弁当をみんなで突っつく…これも、最近ではコンビニ弁当でしょうがね…と、言うものです。
　ピクニックなんてあまりなじまない日本人もこのときばかりは、イギリス人などに負けないだけアウトドアのレジャーを楽しむのです。
　『長屋の花見』なんてのが落語の演目になるくらいですからね。
　だからこそ、手ぶらの人のためには、「屋台」や「出店」がないといけません。
　常設の観光地でさえが、お土産やさんとか茶店が流行らなくなって減っているのに、年に一週間、一度の週末のためにこれを用意するのは大変なことです。
　一種の生きがい対策で準備していると解釈した方が良いのが各地の「桜まつり」でしょうね。
　建前は、あくまでも『村おこし』『地域振興』『観光事業』ですけどね。
　企画会社を雇って設営するところは別として、田舎のそうした手作りイベントを見ると頭が下がります。

　ちょっと、お店が少なかったりすると…
　『何にもないのう…』
　『面白ないのう…』　…と、言われますしね。

熊野では今日もなにやらイベントがあるとか…
ＪＡＳＣＯがオープンして２７周年とやらで、それに乗った物のようですけどね。
あとで覗いてこようと思っています。

昨日の『ＪＲ・さわやかウォーキング』はけっこう盛大でしたが、写真の現像が出来ていませんから、それができ次第と言うことです。

カメラは　　**イコフレック酢 IIa・テッサー75mm2.8 付**
Tags:熊野市 クラシックカメラ　大泊駅の桜　　by **je2luz** | 2009-03-29 12:01

2009 年　03 月　30 日

熊野の旅　JR さわやかウォーキングのお客さん　1

２８日の土曜日に行われた『JR 東海・さわやかウォーキング』を少しだけ覗いて来ました。
行程は『JR 波田須駅』から『大吹峠』…『松本峠』…『紀南ツアーデザインセン

ター』…『熊野市駅』と言うコースで、臨時列車が用意されていました。
この路線にはない『快速列車』みたいでした。
１０時ごろ波田須駅で帰りの列車は熊野市駅を１４時２０分過ぎに発車して行きました。
名古屋からのお客さんを基準にしていますから、帰りの列車もこの時間くらいに出ないと遅くなりますね。
これでも、名古屋着は１８時を回るのですからね。
その関係で、このあたりの定番の『花の窟神社』は入っていませんでした。

最初に私が一団を待ち受けていたのは、『松本峠』の木本側出口でした。
あと 60mほどで平地になる部分です。
二つ目の峠を越え、目の前に町並みが迫ってくるところです。
疲れもピークに達していますが、とりあえずはゴールまでもう少しと言う元気が戻るところでもあります。

最初の方に現れたのは男の人ばかりです。
５００人とか言われる参加者の中で先頭を切ってくるのですから、当然健脚の方なので表情も余裕たっぷりです。
しばらく様子を見てから…
『今日のお客さんには女の人は居ないんですが？』　と、きいてっみました。
『居ましたよ…』
『若い人は？』
『かわいいのも居ましたよ…』　と、言うことでした。
でも、中々、女の人なんて現れませんでしたね。

このあたりからの、石畳・石段は妙に歩きにくい構造なので・・・
『この先、歩きにくいですよ、気をつけて…』と声をかけながら写真を撮っていました。
『ありがとう！』と言いながら、元気良く降りてゆく人が多いのは、先頭で元気一杯の人たちですからね。

海抜 10mほどの波田須駅から峠を二つ越えてきていますから、普段歩いていない人には応えるはずなのです。
私などは、最初の『波田須駅』から急坂を登って、大吹峠の上り口のある、国道３１１号線まで登るのでも嫌ですからね。
でも、二山目を越えたと言う達成感からでしょうね、皆さん、『さわやか』な表情でした。
カメラは　　**ニコマート EL＋シグマ 21～35 ズーム**
Tags:熊野古道 JR 紀勢本線 モノクロ　　by **je2luz** | 2009-03-30 11:58

2009 年　03 月　31 日

熊野の旅　JR さわやかウォーキングのお客さん　2

どでかい団体と言っても、同じ企画で列車に乗ってきただけで、中味は一人旅や家族連れなどばらばらでした。

それに、コースの設定からも、先頭を『JR 東海』なんて旗を持ってガイドが先導するようなものではないのでパラパラと思い思いのペースで山を降りてきていました。

一山ならそんなにさばけないでしょうが、二山で、早い人でも二時間の行程…つまり、素人参加のマラソンみたいなものですから、列は伸び放題に伸びますね。

機能の場所から 20mほど上まで登ってカメラを構えて待つと、少しずつご婦人交じりのお客さんも降りてこられましたが、本隊？はうんとあとのようでした。

そこそこしんどいコースを踏破し終えかけ、木々の間からすぐ足元に木本の町が見えるので、顔がほころんでいる人が多いですね。

このウォーキングは昔の人の一日の行程の 1/4 から 1/5 ほどのものでしょう。

本物の『熊野詣』の場合は、すぐ上の松本峠からは、『新宮』『那智山』『本宮』の三山がかすんで見えてはいても。一番近い『速玉大社』まででも６里もあります。かなり先の話です。

でも、本当に『先が見えた』状態になるし、これからは目で見ても平地の浜街道がしばらく続きます。

このウォーキングのお客さんとは比較にならないほど、疲れてはいるけどうれしさ

もはるかに大きかったものと思われます。
　日暮れまでに山が越えられ、無事に里に出られる喜びは、おもわず神仏に感謝したくなるようなものだったでしょうね。

　『熊野古道』と言うのは街道で道に過ぎません。
　紀伊半島をくねくねと半周する道で、目的は『熊野詣』と言うはっきりしたものはありますが、その道中には取り立てて何かがあると言うものではありません。
　ひたすら、神の元へ歩み続ける道なのです。
　ヨーロッパにも巡礼の道があるようですが、ひたすら、聖地を求めて歩くことに意義を見出すのは東も西も同じなのですね。
　ヨーロッパ・イスラム諸国・インド・チベットなどには今でも残っているのに、日本人は便利なものが出来るとそちらに移るらしく、こうしたものは廃れてゆきますね。
　四国の巡礼さんも、近年は少し復活しているようですが、歩かないで巡礼するツアーが盛んだった頃もありますからね。

　この人たちの顔に自然に浮かぶうれしさと、おそらく四半時ほど前に浮かんでいたであろう苦しげな表情の繰り返しが、『熊野詣』の意義なのかと思います。
　これが、半日ではなく半月も一月も続いたわけですからね。修行にもなったはずです。
　半日の行程でさえ真っ平だと言う私など、とても修行なんて勤まりませんね。

by **je2luz** | 2009-03-31 12:01